

県民暮らしのアンケート調査

(平成28年8月実施)

香川県民の暮らし向きや消費の実態・意識を把握するために、「県民暮らしのアンケート調査」を実施した。(消費税率引き上げ延期等についての意識調査も併せて実施)

調査結果の概要

※四捨五入の関係で計数の内訳と合計の記述が一致しない場合がある。(本文も同様)

- (1) 現在の暮らし向きについて、72.9%の人が1年前と比べて「変わらない」と回答。また、「(やや)良くなった」と回答した人は7.2%、「(やや)悪くなった」と回答した人は19.8%であった。
- (2) 今後1年間の暮らし向きについて、64.1%の人が現在と比べて「変わらない」と予想。また、「(やや)良くなる」と予想した人は8.1%、「(やや)悪くなる」と予想した人は27.8%であった。
- (3) 今後1年間の収入について、59.6%の人が「変わらない」と予想。また、「(やや)増える」と予想した人は9.6%であった。
- (4) 今年の夏のボーナスの使い道について、40.8%の人が「預貯金」の金額を増やすと回答。
- (5) 平成29年4月に予定されていた消費税率の10%への引き上げを延期したことについて、64.1%が「(どちらかといえば)評価する」、29.9%が「(どちらかといえば)評価しない」と回答。
- (6) 消費税率の引き上げ延期を評価する理由のトップは、「消費増税で、生活が苦しくなると思うから」の55.7%。評価しない理由のトップは、「国の財政健全化が遅れるから」の41.9%であった。
- (7) マイナス金利の影響について、生活に影響が「ある」と回答した人は24.7%であった。
- (8) 1年後の県内景気について、70.3%の人が現在と「変わらない」と予想。
- (9) 1年後の物価について、50.5%の人が現在と「変わらない」、45.0%の人が「(やや)上がる」と予想。
- (10) 1年後の消費行動(お金の使い方)について、44.7%の人が現在と「変わっていない」、44.3%の人が現在と比べて節約をしていると回答。

アンケート調査要領

1. 調査期間：平成28年8月26日～8月31日
2. 調査対象：香川県内在住の20歳以上の男女
3. 調査方法：インターネット調査(調査会社の登録モニターによる回答)
4. 有効回答数：535人
5. 回答者の構成と属性

■年代別回答者数

	計		男		女	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20代	67	12.5%	13	2.4%	54	10.1%
30代	113	21.1%	58	10.8%	55	10.3%
40代	118	22.1%	62	11.6%	56	10.5%
50代	112	20.9%	57	10.7%	55	10.3%
60代以上	125	23.4%	69	12.9%	56	10.5%
合計	535	100.0%	259	48.4%	276	51.6%

■住宅の種類

	人数	構成比
持家(一戸建て)	375	70.1%
持家(マンション等)	48	9.0%
社宅	11	2.1%
借家	101	18.9%
合計	535	100.0%

■世帯主の職業

	人数	構成比
会社員	237	44.3%
公務員	44	8.2%
自営業	74	13.8%
その他	180	33.6%
合計	535	100.0%

■職業

	人数	構成比
会社員	191	35.7%
公務員	31	5.8%
自営業	61	11.4%
その他	252	47.1%
合計	535	100.0%

■未既婚の別

	人数	構成比
合計	535	100.0%
うち既婚	353	66.0%

■世帯の年収

	人数	構成比
300万円未満	84	15.7%
300～500万円未満	133	24.9%
500～700万円未満	120	22.4%
700～1,000万円未満	66	12.3%
1,000万円以上	35	6.5%
答えたくない・わからない	97	18.1%
合計	535	100.0%

■世帯の人員

	人数	構成比
1人	61	11.4%
2人	149	27.9%
3人	146	27.3%
4人	117	21.9%
5人	43	8.0%
6人	12	2.2%
7人以上	7	1.3%
合計	535	100.0%

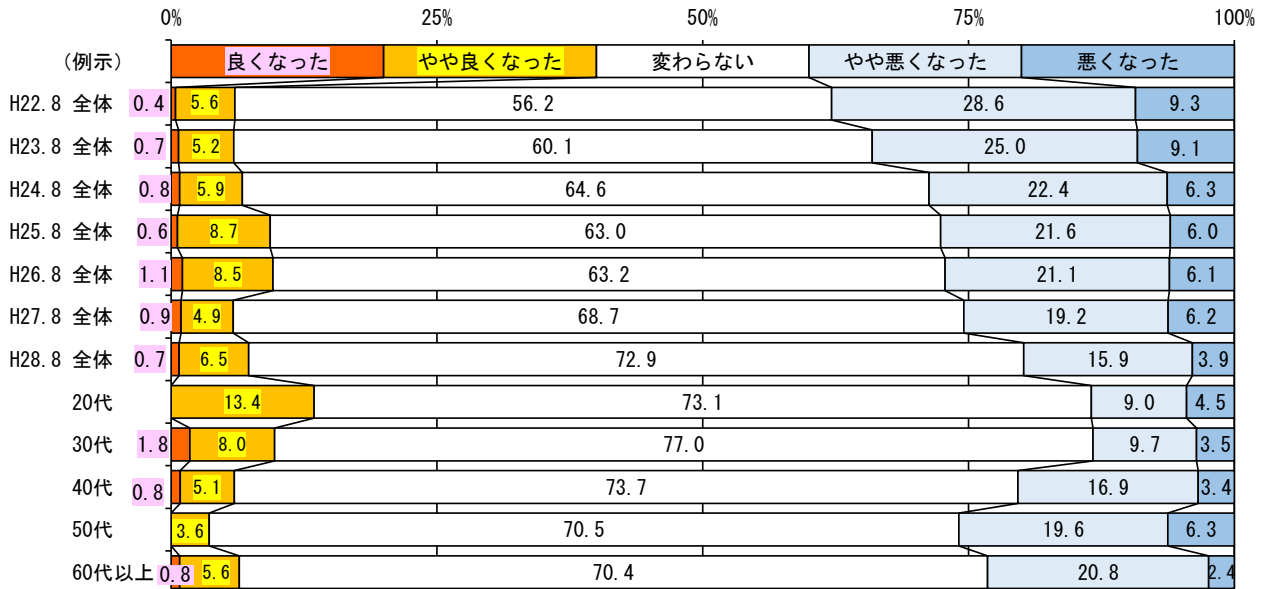
(注)四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない場合がある。(以降、本文中の図表も同様)

I. 「暮らし向き」について

1. 現在の暮らし向き（1年前と比べて） ～ 72.9%が「変わらない」と回答 ～

現在の暮らし向きについて1年前と比べてどうか尋ねたところ、「変わらない」と回答した人の割合が最も高く72.9%であった。また、「良くなった」が0.7%、「やや良くなった」が6.5%であったのに対して、「悪くなった」は3.9%、「やや悪くなった」は15.9%であった。

Q. お宅の暮らし向きは、1年前と比べてどうなりましたか。

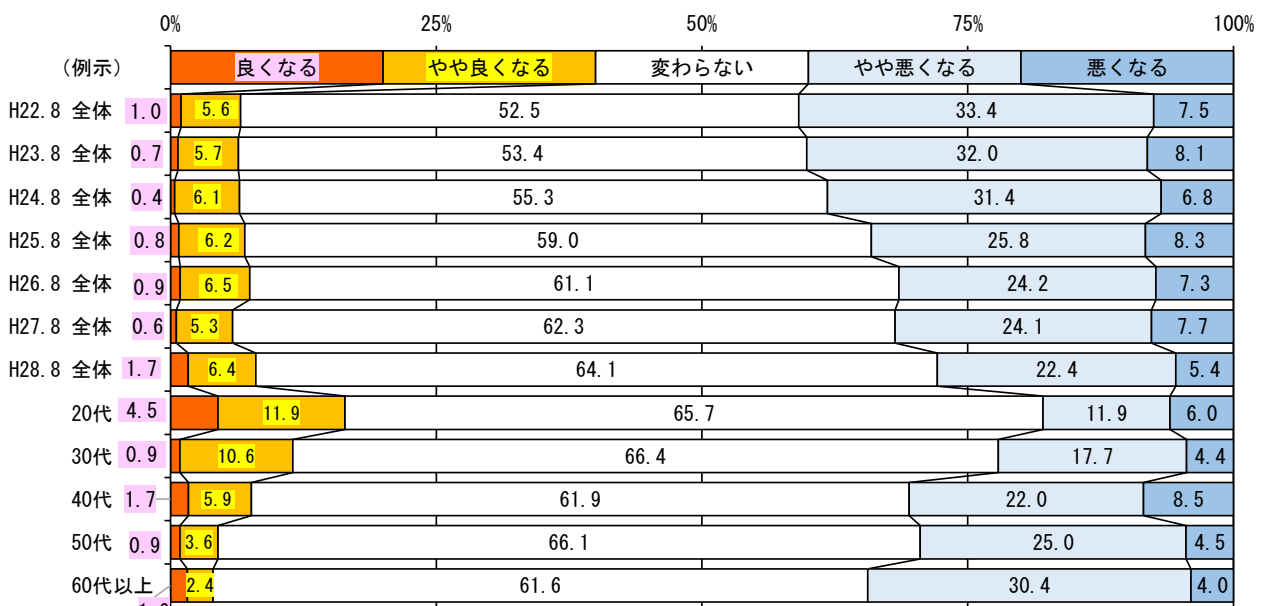


(注) H22.8～H27.8は過去実施した調査の結果である。

2. 今後1年間の暮らし向き ～ 64.1%が「変わらない」と予想 ～

今後1年間の暮らし向きについて、今と比べてどうなると思うか尋ねたところ、「変わらない」と予想した人の割合が最も高く64.1%であった。また、「良くなる」が1.7%、「やや良くなる」が6.4%であったのに対して、「悪くなる」が5.4%、「やや悪くなる」が22.4%であった。

Q. お宅の暮らし向きは、今後1年間で、今と比べてどうなると思いますか。

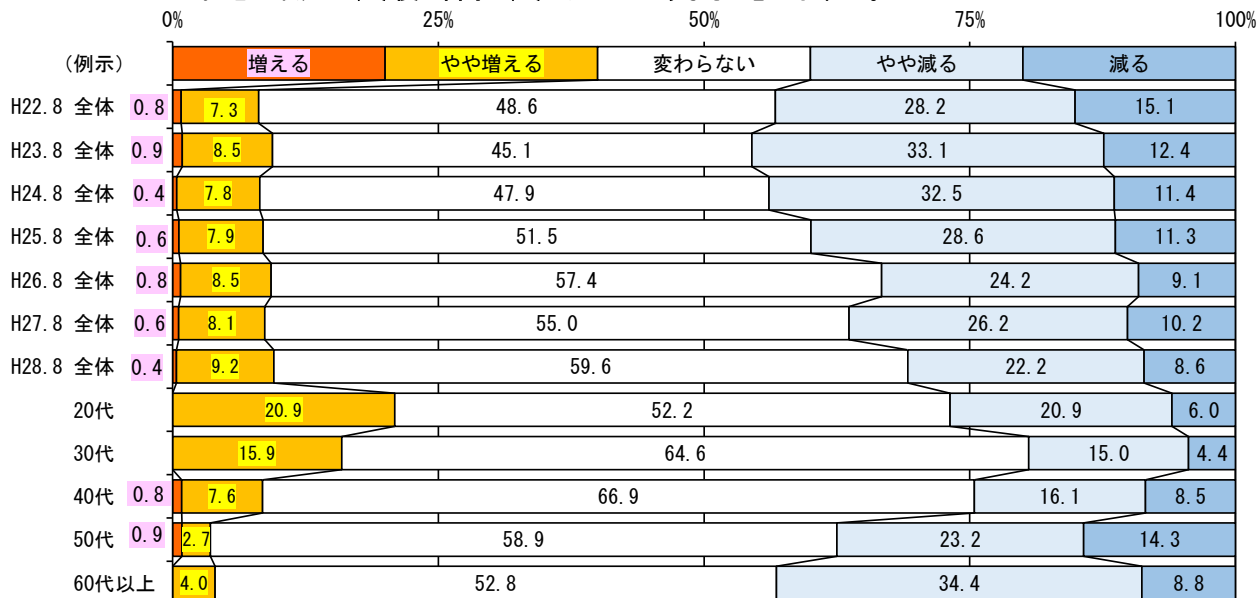


(注) H22.8～H27.8は過去実施した調査の結果である。

3. 今後1年間の収入 ～ 59.6%が「変わらない」と予想 ～

今後1年間の収入について尋ねたところ、「変わらない」と予想した人の割合が最も高く59.6%であった。また、「増える」が0.4%、「やや増える」が9.2%であったのに対して、「減る」が8.6%、「やや減る」が22.2%であった。

Q. お宅の収入は、今後1年間で、今と比べてどうなると思いますか。



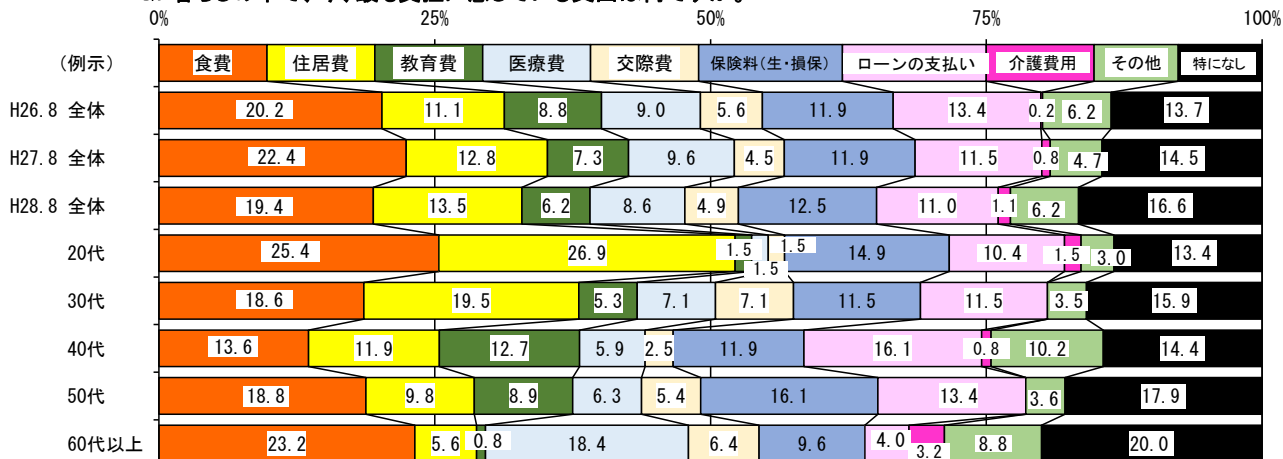
(注) H22.8～H27.8は過去実施した調査の結果である。

4. 最も負担に感じている支出

現在、「最も負担に感じている支出項目」を尋ねたところ、回答割合が最も高かったのは「食費」で19.4%、次いで「住居費」の13.5%、「保険料(生・損保)」の12.5%、「ローンの支払い」の11.0%であった。年代別に上位3位までを列挙すると、次のようにライフステージごとの特徴が表れている。

- 20代・・・①「住居費」(26.9%) ②「食費」(25.4%) ③「保険料(生・損保)」(14.9%)
- 30代・・・①「住居費」(19.5%) ②「食費」(18.6%) ③「保険料(生・損保)」、「ローンの支払い」(11.5%)
- 40代・・・①「ローンの支払い」(16.1%) ②「食費」(13.6%) ③「教育費」(12.7%)
- 50代・・・①「食費」(18.8%) ②「保険料(生・損保)」(16.1%) ③「ローンの支払い」(13.4%)
- 60代以上・・・①「食費」(23.2%) ②「医療費」(18.4%) ③「保険料(生・損保)」(9.6%)

Q. 暮らしの中で、今、最も負担に感じている支出は何ですか。



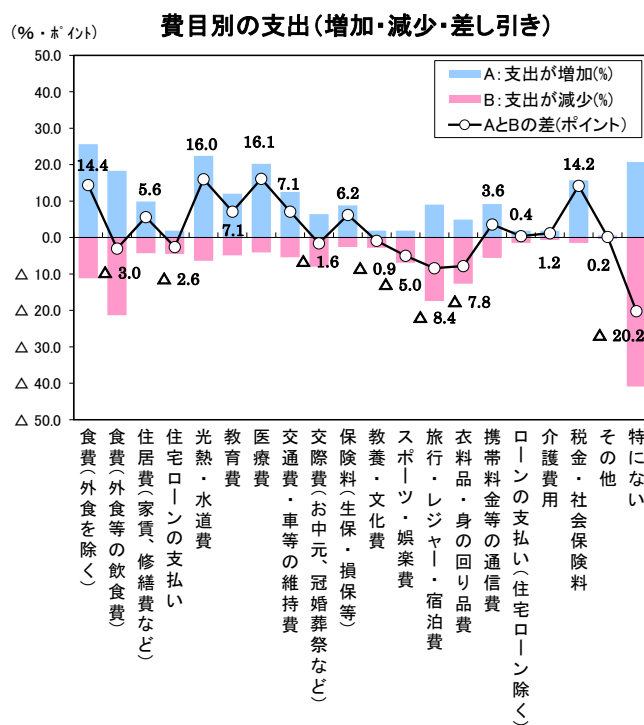
(注) H26.8、H27.8は過去実施した調査の結果である。

5. 支出が増加した費目・減少した費目

この1年間の支出で「増加した費目」と「減少した費目」について尋ね、各費目を選んだ人の割合を「増加」、「減少」、「増減の差」としてグラフにしたものが右の図である（3 つまでの複数回答）。

グラフで費目別に増減の差をみると、支出が増加した費目では「医療費」が最も高く 16.1 ポイント、次いで「光熱・水道費」の 16.0 ポイント、「食費（外食を除く）」の 14.4 ポイント、「税金・社会保険料」の 14.2 ポイントとなっている。

一方、支出が減少した費目では、「旅行・レジャー・宿泊費」が最もマイナスとなり、マイナス 8.4 ポイント、次いで「衣料品・身の回り品費」のマイナス 7.8 ポイント、「スポーツ・娯楽費」のマイナス 5.0 ポイントとなっている。

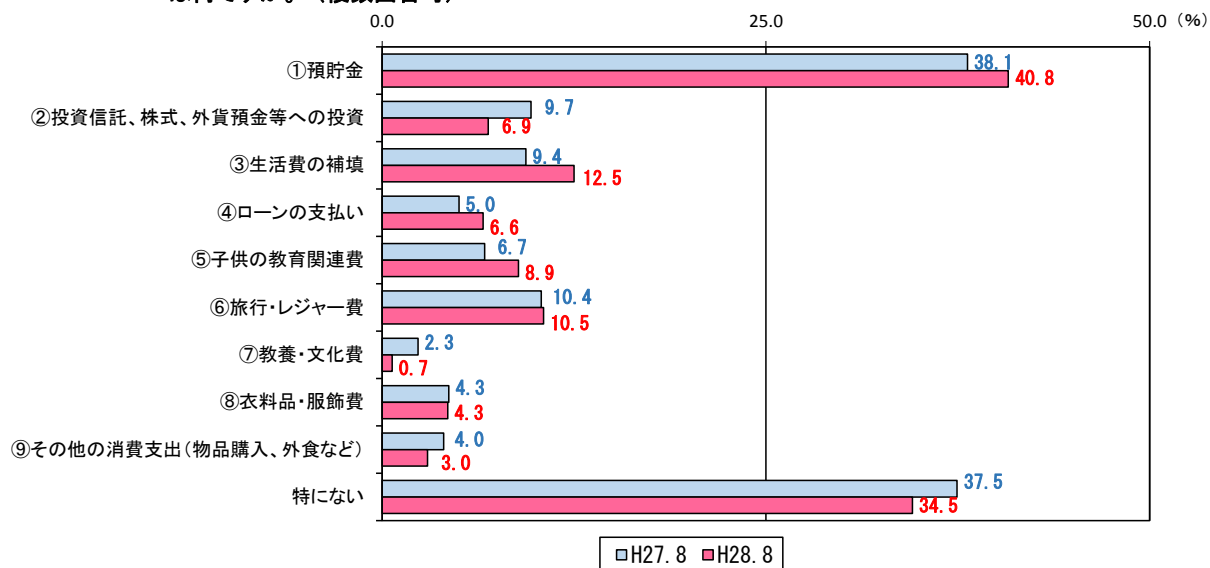


6. 今年の夏のボーナスの使い道 ～ 40.8%が預貯金を増やすと回答 ～

今年の夏のボーナスの使い道について、昨年（又は例年）と比べて、金額を増やしたもの（又は増やそうと思うもの）を尋ねたところ、「預貯金」が最も回答割合が高く 40.8%であった。預貯金同様に将来の備えとなる「投資信託、株式、外貨預金等への投資」は 6.9%であった。

その他、回答割合が高かったものは、「生活費の補填」の 12.5%、「旅行・レジャー費」の 10.5%、「子供の教育関連費」の 8.9%であった。

Q. 今年の夏のボーナスの使い道で、昨年(又は例年)と比べて、金額を増やしたもの(増やそうと思うもの)は何ですか。(複数回答可)

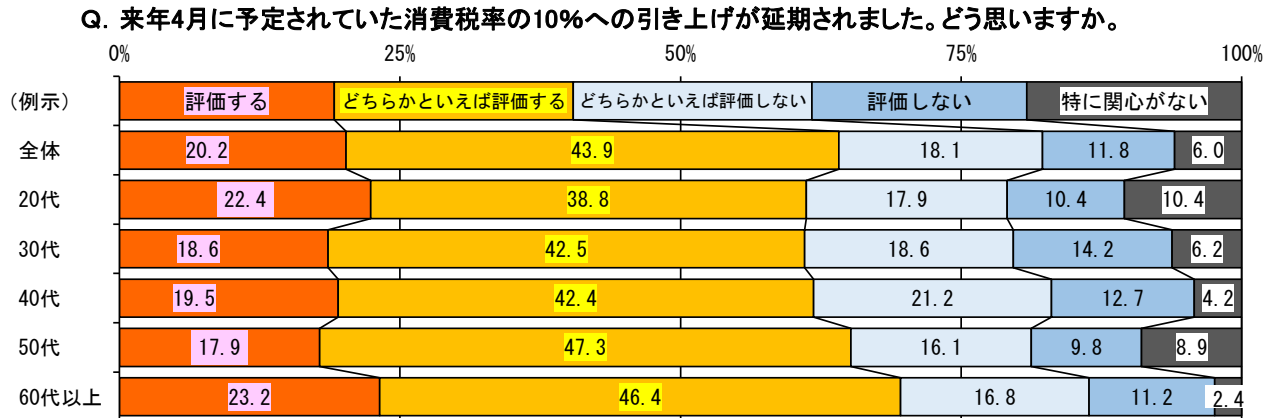


(注) 1. 調査対象はボーナス支給があった家計のみ。 2. H27.8は昨年実施した調査の結果である。

Ⅱ. 「消費増税」について

1. 消費税率 10%への引き上げの延期について

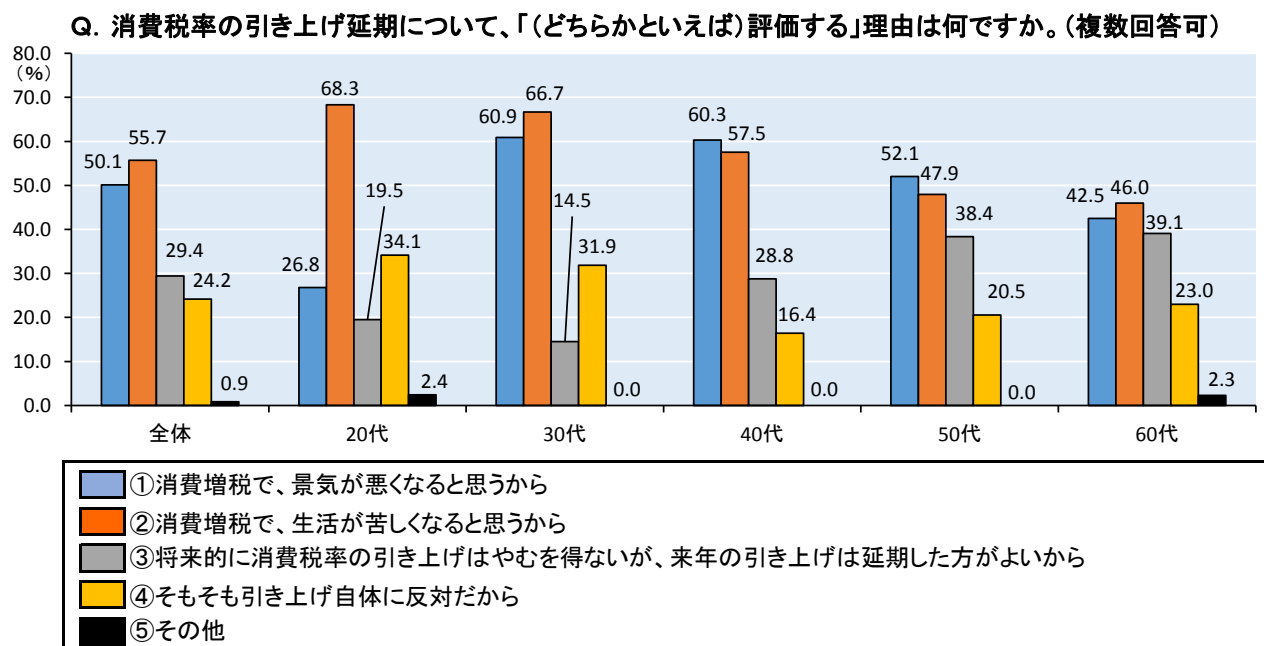
平成 29 年 4 月に予定されていた消費税率の 8%から 10%への引き上げが、平成 31 年 10 月に延期になったことについて尋ねたところ、「評価する (20.2%)」、「どちらかといえば評価する (43.9%)」と回答した人の割合が合計で 64.1%であったのに対して、「評価しない (11.8%)」「どちらかといえば評価しない (18.1%)」は合計で 29.9%であった。年代別にみると、「(どちらかといえば) 評価する」と回答した割合が最も高かったのは 60 代以上で 69.6%であった。



2. 消費税率引き上げ延期を、評価する理由、評価しない理由

消費税率の引き上げ延期を「(どちらかといえば) 評価する」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、最も回答割合が高かったのが、「消費増税で、生活が苦しくなると思うから」で 55.7%、次いで「消費増税で、景気が悪くなると思うから」が 50.1%、「将来的に消費税率の引き上げはやむを得ないが、来年の引き上げは延期した方がよいから」が 29.4%であった。

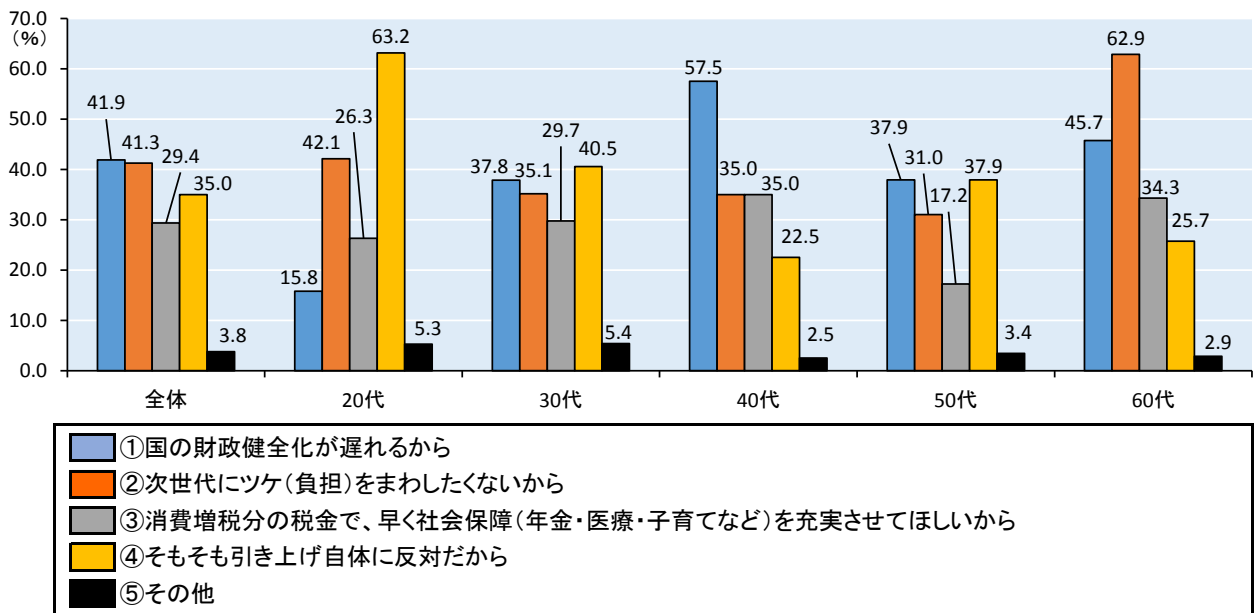
評価する理由のうち「消費増税で、生活が苦しくなると思うから」は 20 代の回答割合が最も高く、20 代の 68.3%が選択している。



一方、消費税率の引き上げ延期を「(どちらかといえば) 評価しない」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、最も回答割合が高かったのは、「国の財政健全化が遅れるから」で41.9%、次いで「次世代にツケ(負担)をまわしたくないから」が41.3%、「そもそも引き上げ自体に反対だから」が35.0%、「消費増税分の税金で、早く社会保障(年金・医療・子育てなど)を充実させてほしいから」が29.4%であった。

評価しない理由のうち「国の財政健全化が遅れるから」は40代の回答割合が最も高く、40代の57.5%が選択した。同じく「次世代にツケ(負担)をまわしたくないから」は60代以上、「そもそも引き上げ自体に反対だから」は20代、「消費増税分の税金で、早く社会保障(年金・医療・子育てなど)を充実させてほしいから」は40代の選択割合が他の年代と比べて高かった。

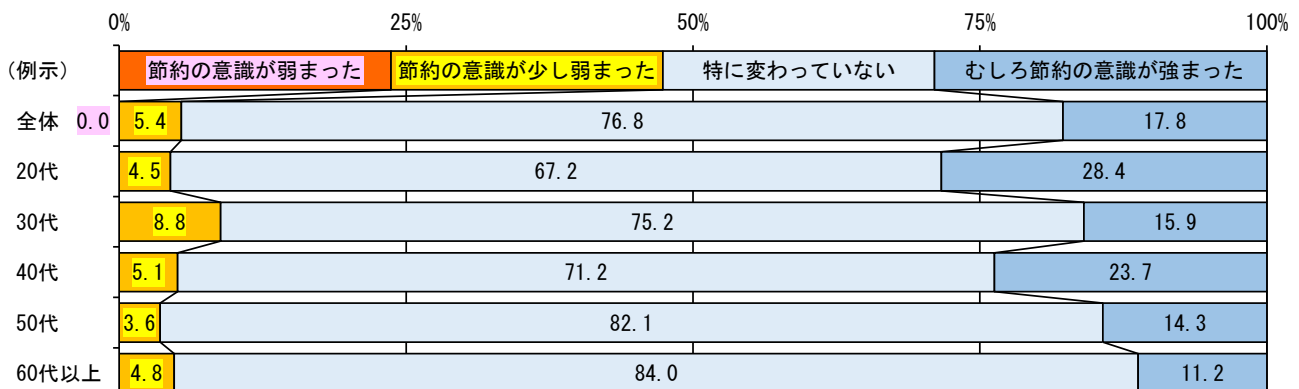
Q. 消費税率の引き上げ延期について、「(どちらかといえば) 評価しない」理由は何ですか。(複数回答可)



3. 消費税率引き上げ延期による消費支出の仕方の変化について

消費税率の引き上げ延期で、消費支出の仕方(お金の使い方)に変化があるかどうか尋ねたところ、「節約の意識が弱まった(0.0%)」、「節約の意識が少し弱まった(5.4%)」と回答した人の割合は合計で5.4%、「特に変わっていない」は76.8%、「むしろ節約の意識が強まった」が17.8%であった。

Q. 消費税率の10%への引き上げの延期で、消費支出の仕方(お金の使い方)に変化がありますか。



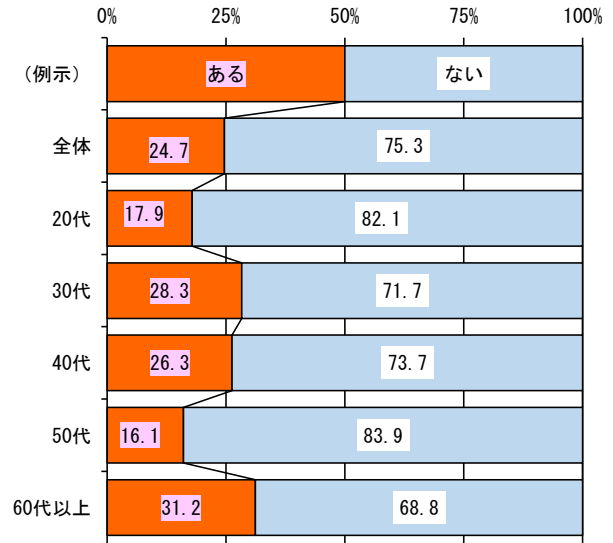
Ⅲ. 「マイナス金利」について

1. マイナス金利の影響について

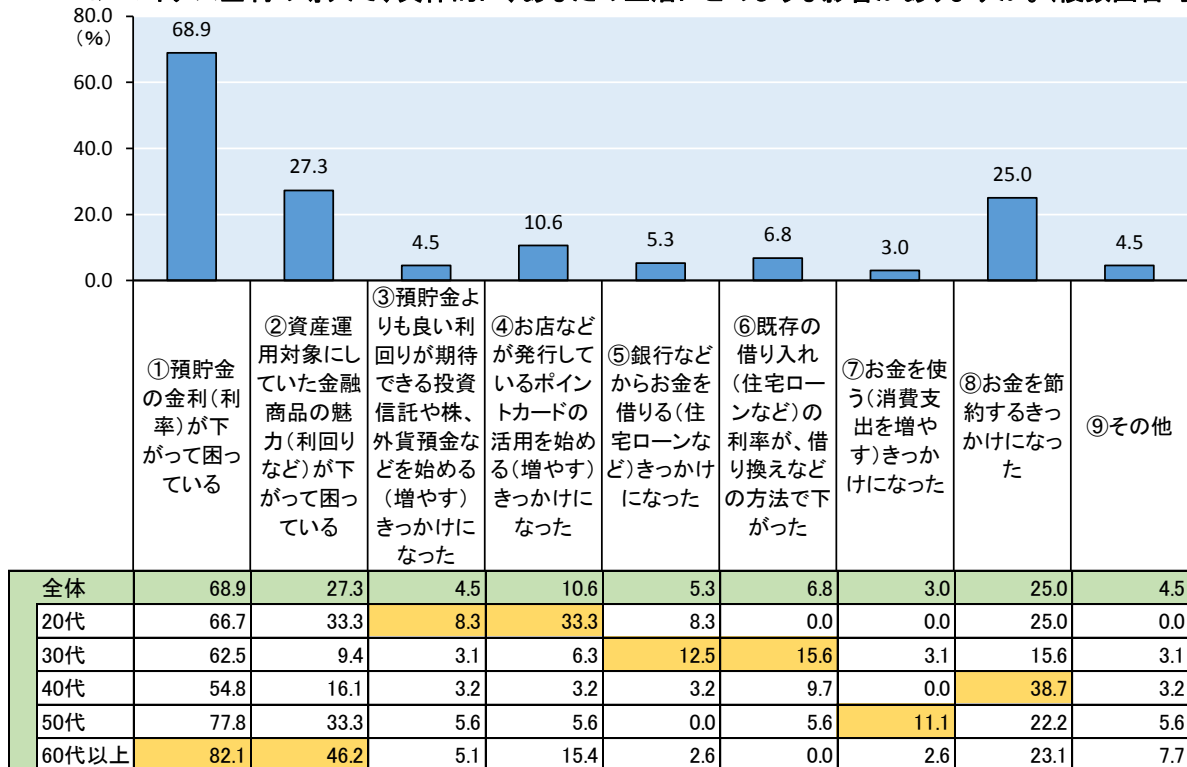
日本銀行の「マイナス金利政策」が、平成28年2月より始まり、住宅ローンの金利が下がり銀行などからお金を借りやすくなったり、預貯金の金利が下がるなど、家計を取り巻く環境にも変化が出てきている。そこで、マイナス金利の生活への影響について尋ねたところ、影響が「ある」と回答した人の割合が24.7%であったのに対して、影響が「ない」が75.3%であった。年代別にみると、影響が「ある」を選択した割合が最も高かったのは、60代以上で31.2%であった。

次に、生活に影響が「ある」と回答した人に、その影響内容について尋ねたところ、最も回答割合が高かったのは、「預貯金の金利（利率）が下がって困っている」で68.9%、次いで「資産運用対象にしていた金融商品の魅力（利回りなど）が下がって困っている」が27.3%、「お金を節約するきっかけになった」が25.0%であった。その他、「お店などが発行しているポイントカードの活用を始める（増やす）きっかけになった」が10.6%、「既存の借り入れ（住宅ローンなど）の利率が、借り換えなどの方法で下がった」が6.8%、「銀行などからお金を借りる（住宅ローンなど）きっかけになった」が5.3%となっている。

Q. マイナス金利の導入で、あなたの生活に何か影響がありますか。



Q. マイナス金利の導入で、具体的に、あなたの生活にどのような影響がありますか。（複数回答可）



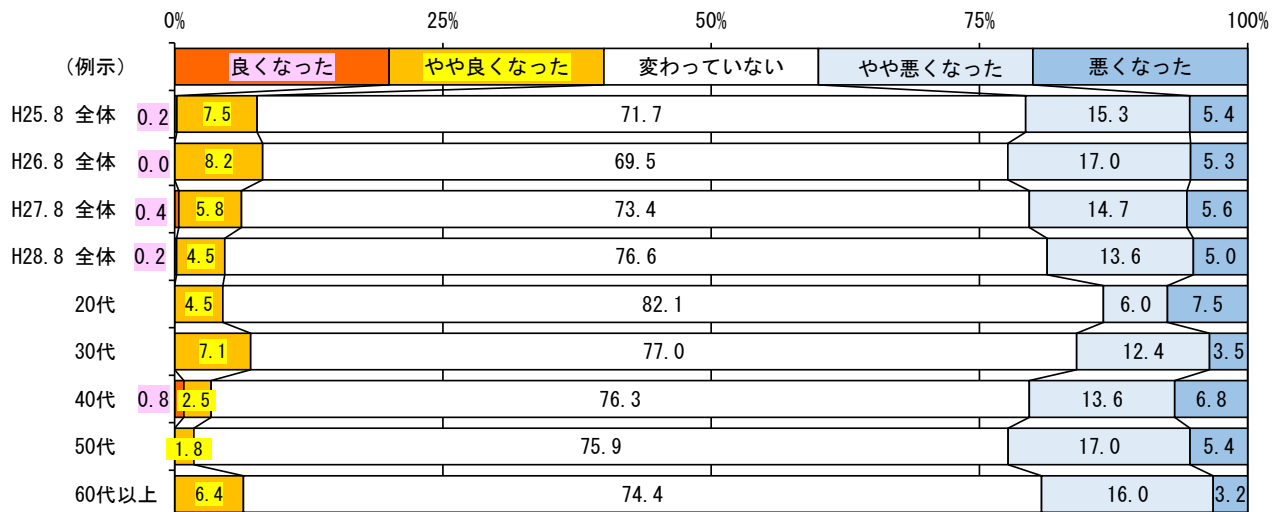
(注) は回答割合の最も高い年代(選択肢別)。

IV. 香川県内の景気について

1. 県内の景気（1年前と比べて） ～ 76.6%が「変わっていない」と回答～

香川県内の景気について尋ねたところ、1年前と比べて「変わっていない」と回答した人の割合が最も高く76.6%であった。また、「良くなった（0.2%）」、「やや良くなった（4.5%）」と回答した人の割合が合計で4.7%であったのに対して、「悪くなった（5.0%）」、「やや悪くなった（13.6%）」と回答した人の割合が合計で18.6%であった。

Q. 1年前と比べて、現在の香川県内の景気は、良くなったと思いますか。悪くなったと思いますか。

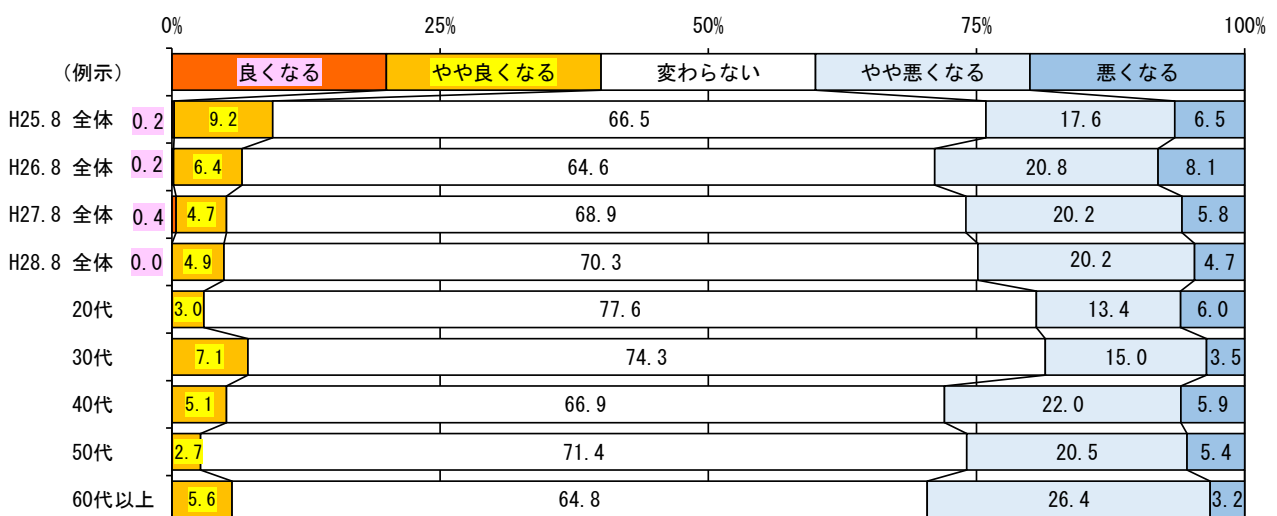


(注) H25.8～H27.8は過去実施した調査の結果である。(以降の図表も同様)

2. 1年後の県内の景気 ～ 70.3%が「変わらない」と予想～

香川県内の1年後の景気について尋ねたところ、現在と比べて「変わらない」と回答した人の割合が最も高く70.3%であった。また、「良くなる（0.0%）」、「やや良くなる（4.9%）」と予想した人の割合が合計で4.9%であったのに対して、「悪くなる（4.7%）」、「やや悪くなる（20.2%）」と予想した人の割合が合計で24.9%であった。

Q. 1年後の香川県内の景気は、現在と比べて、良くなると思いますか。悪くなると思いますか。



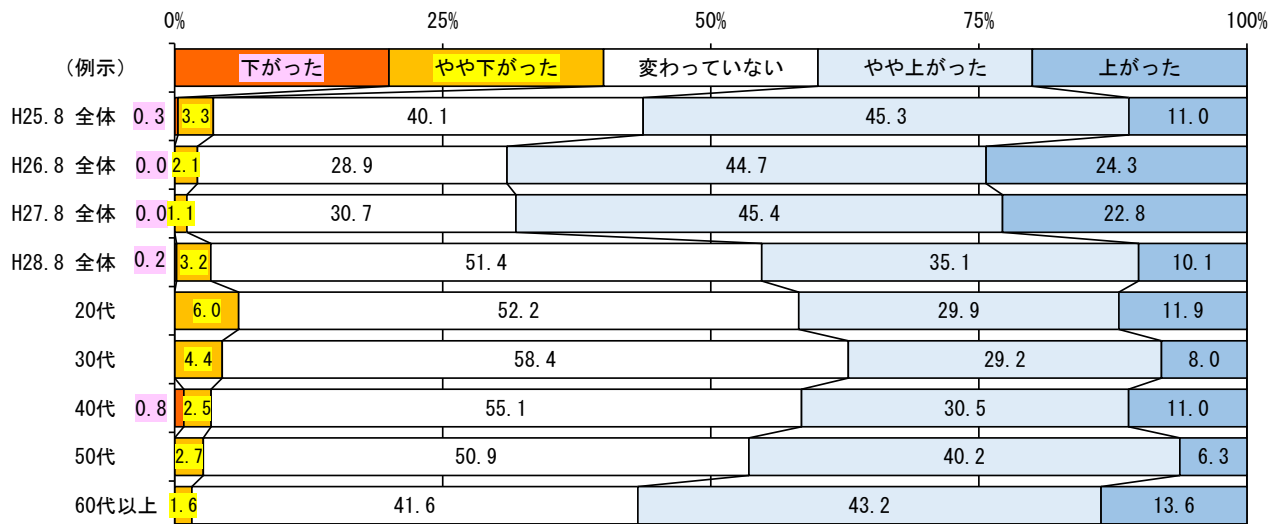
V. 物価について

1. 物価（1年前に比べて）～ 51.4%が「変わっていない」、45.2%が「(やや)上がった」と回答～

消費者物価について尋ねたところ、「上がった(10.1%)」、「やや上がった(35.1%)」と感じている人の割合が合計45.2%であった。「変わっていない」は51.4%であった。

年代別にみると、「(やや)上がった」と感じている人の割合が最も高かったのは60代以上で56.8%であった。

Q. 1年前と比べて、物価は下がったと感じますか、上がったと感じますか。

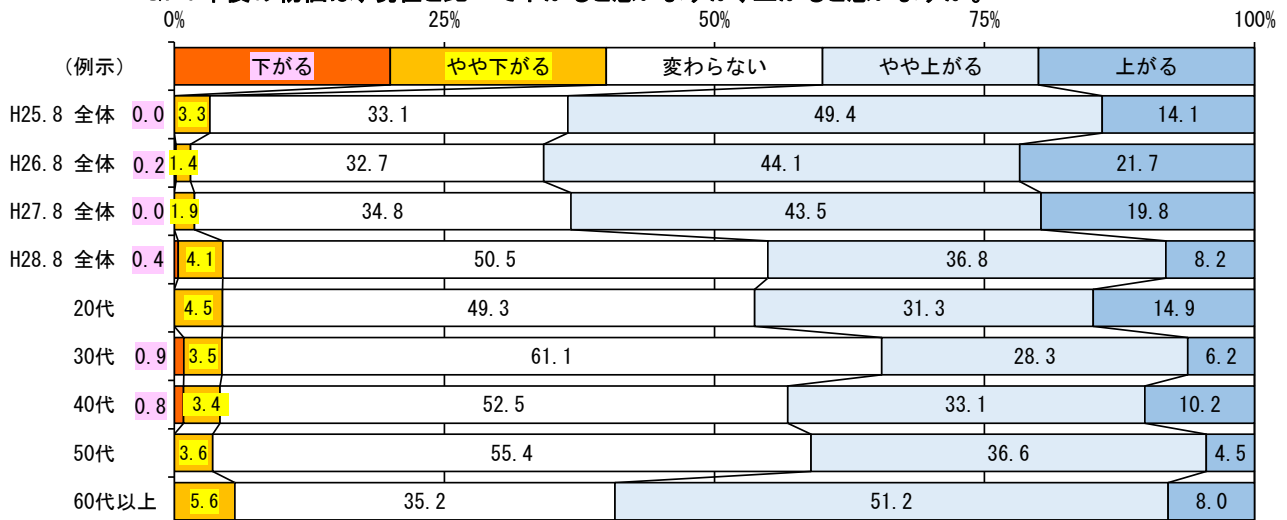


2. 1年後の物価 ～ 50.5%が「変わらない」、45.0%が「(やや)上がる」と予想～

1年後の消費者物価について尋ねたところ、「上がる(8.2%)」、「やや上がる(36.8%)」と予想した人の割合が合計45.0%であった。「変わらない」は50.5%であった。

年代別にみると、「(やや)上がる」と予想している人の割合が最も高かったのは60代以上で59.2%であった。

Q. 1年後の物価は、現在と比べて下がると思いますか、上がると思いますか。

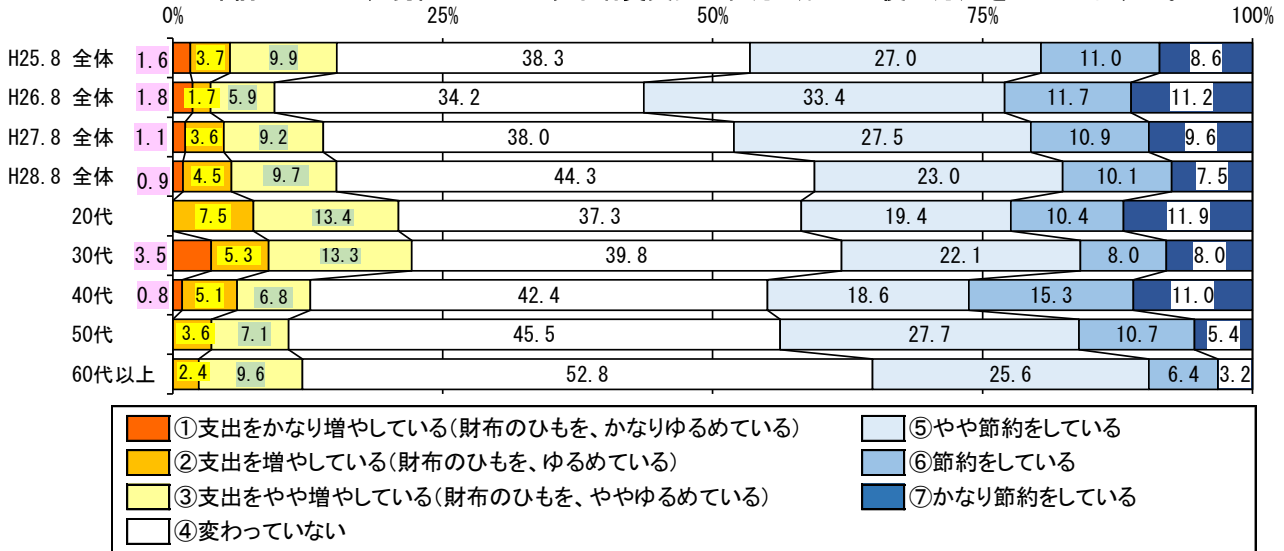


VI. 消費行動について

1. 現在の消費行動（1年前に比べて）～44.3%が「変わっていない」、40.6%が節約をしていると回答～

現在の消費支出の仕方（お金の使い方）について尋ねたところ、1年前と比べて「支出をかなり増やしている（0.9%）」、「支出を増やしている（4.5%）」、「支出をやや増やしている（9.7%）」の回答割合が合計 15.1%であったのに対して、「かなり節約をしている（7.5%）」、「節約をしている（10.1%）」、「やや節約をしている（23.0%）」は合計 40.6%であった。「変わっていない」は 44.3%であった。

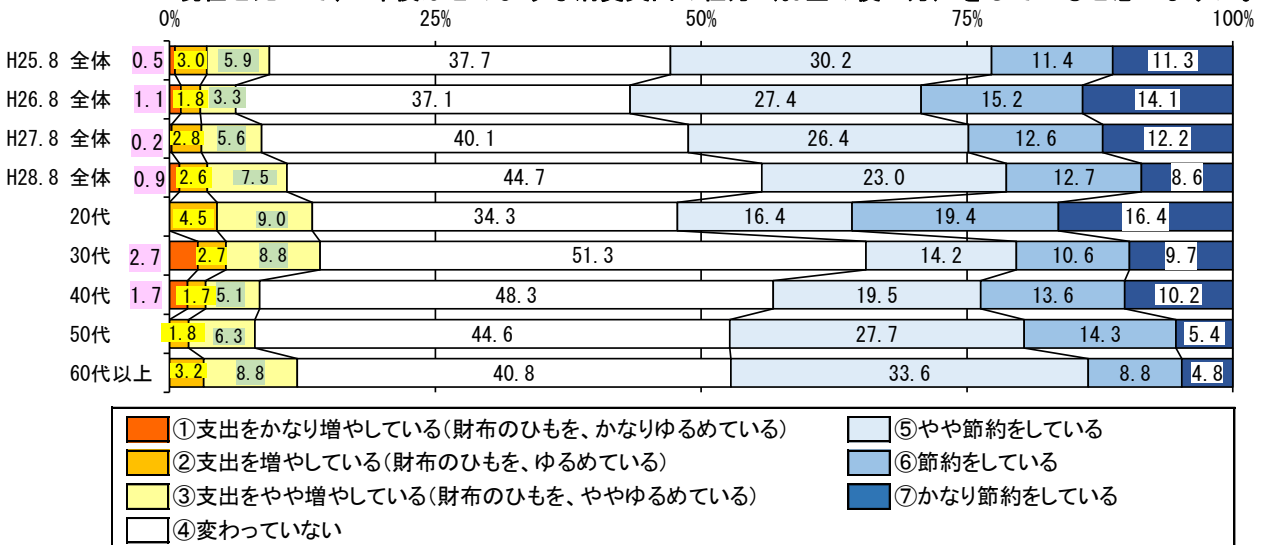
Q. 1年前と比べて、現在はどのような消費支出の仕方（お金の使い方）をしていますか。



2. 1年後の消費行動 ～ 44.7%が「変わっていない」、44.3%が節約をしていると予想～

1年後の消費支出の仕方（お金の使い方）について尋ねたところ、現在と比べて「支出をかなり増やしている（0.9%）」、「支出を増やしている（2.6%）」、「支出をやや増やしている（7.5%）」の回答割合が合計 11.0%であったのに対して、「かなり節約をしている（8.6%）」、「節約をしている（12.7%）」、「やや節約をしている（23.0%）」は合計 44.3%であった。「変わっていない」は 44.7%であった。

Q. 現在と比べて、1年後はどのような消費支出の仕方（お金の使い方）をしていると思いますか。



(H28.9.20 主席研究員 高木俊裕)